

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。③そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年全児童

中学校第3学年全生徒

※ 小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 調査事項

(1) 教科に関する調査

ア 小学校調査は、国語、算数の2教科とし、中学校調査は、国語、数学の2教科とする。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。

(2) 質問調査

ア 学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する児童生徒に対する質問調査、学校に対する質問調査

4 調査方式

悉皆調査

5 調査実施日 令和6年4月18日（木曜日）

6 調査を実施した学校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	実施学校数	児童数	実施学校数	生徒数
宇治市	22校	1,388人	10校	1,336人
全国（公立）	18,529校	947,579人	9,347校	875,952人

※ 4月18日に調査を実施した児童生徒

7 教科に関する調査結果（小学校）

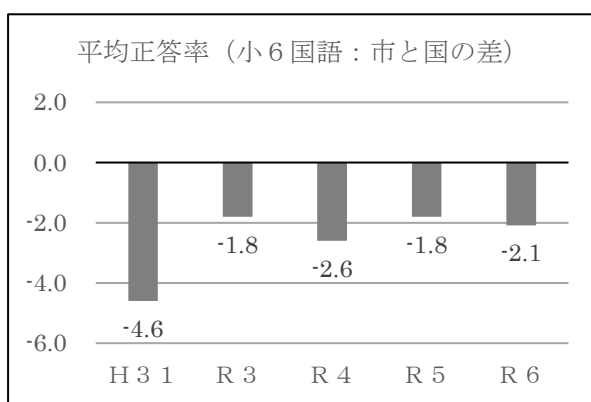
（1）令和6年度調査結果

小学校 教科に関する調査の平均正答率・平均正答数（小学校）

科目	区分	平均正答率（％）	平均正答数/全問数（問）
国 語	宇治市（公立）	65.6	9.2／14
	全 国（公立）	67.7	9.5／14
算 数	宇治市（公立）	65.1	10.4／16
	全 国（公立）	63.4	10.1／16

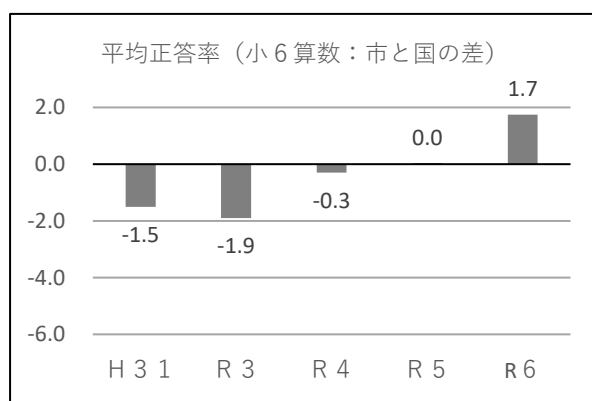
（2）各教科別の調査結果の経年変化

ア 国語（小学校） 過去6年間の国語科平均正答率 市と全国の差推移



	H31	R3	R4	R5	R6
宇治市	59.2	62.9	63.0	65.4	65.6
全国	63.8	64.7	65.6	67.2	67.7
市と国の差	-4.6	-1.8	-2.6	-1.8	-2.1

イ 算数（小学校） 過去6年間の算数科平均正答率 市と全国の差推移



	H31	R3	R4	R5	R6
宇治市	65.1	68.3	62.9	62.5	65.1
全国	66.6	70.2	63.2	62.5	63.4
市と国の差	-1.5	-1.9	-0.3	0.0	+1.7

8 教科に関する調査結果（中学校）

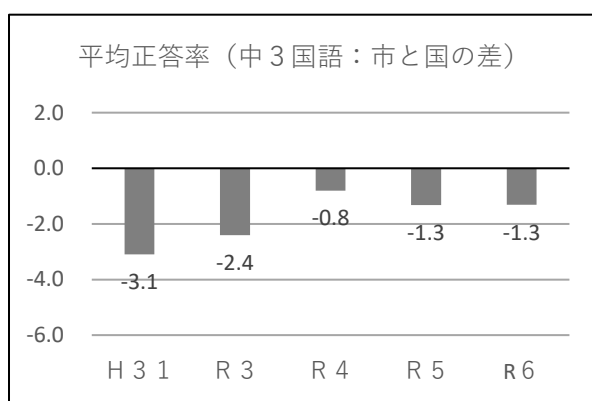
（1）令和6年度調査結果

中学校 教科に関する調査の平均正答率・平均正答数

科目	区分	平均正答率（％）	平均正答数/全問数（問）
国 語	宇治市（公立）	56.8	8.5/15
	全国（公立）	58.1	8.7/15
数 学	宇治市（公立）	51.4	8.2/16
	全国（公立）	52.5	8.4/16

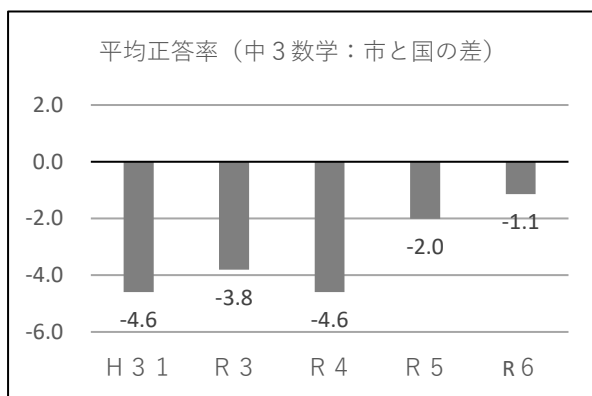
（2）各教科別の調査結果の経年変化

ア 国語（中学校） 過去6年間の国語科平均正答率 市と全国の差推移



	H 3 1	R 3	R 4	R 5	R 6
宇治市	69.7	62.2	68.2	68.5	56.8
全 国	72.8	64.6	69.0	69.8	58.1
市と国の差	-3.1	-2.4	-0.8	-1.3	-1.3

イ 数学（中学校） 過去6年間の算数科平均正答率 市と全国の差推移



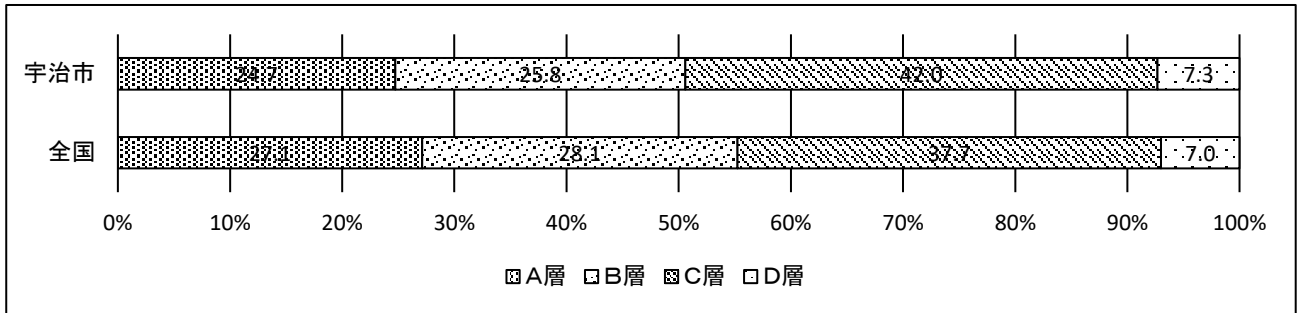
	H 3 1	R 3	R 4	R 5	R 6
宇治市	55.2	53.4	46.8	49.0	51.4
全 国	59.8	57.2	51.4	51.0	52.5
市と国の差	-4.6	-3.8	-4.6	-2.0	-1.1

9 教科に関する調査結果及び四層別による比較

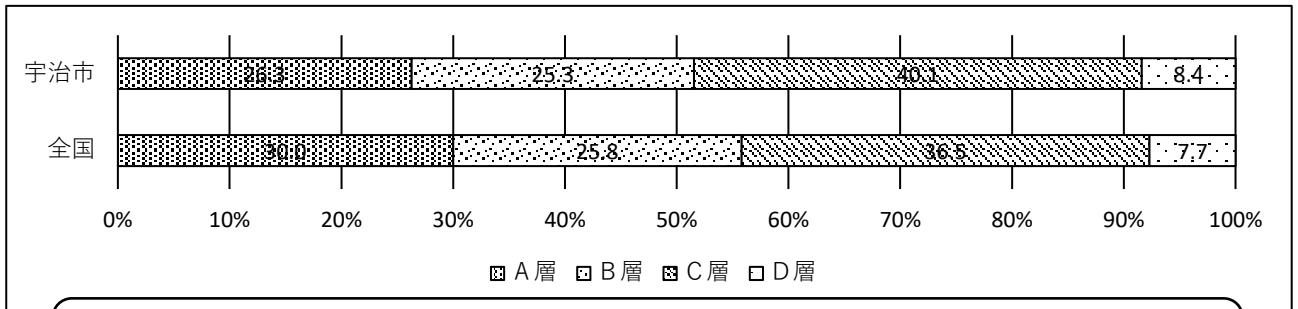
宇治市ではより学力実態を把握しやすい府教委方式に準じた「4層区分」に分けて比較し、分析を進めています。全国学力・学習状況調査の「平均正答数」を規準として、「基準以上」「基準未満」に2分し、同様にそれを2分して上位からA層、B層、C層、D層に分け、それぞれの割合を算出しています。

(1) 小学校国語 四層別割合

令和5年度



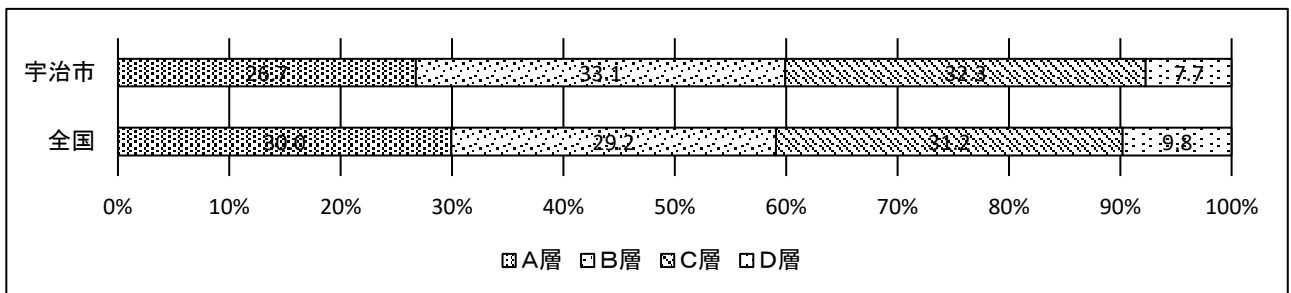
令和6年度



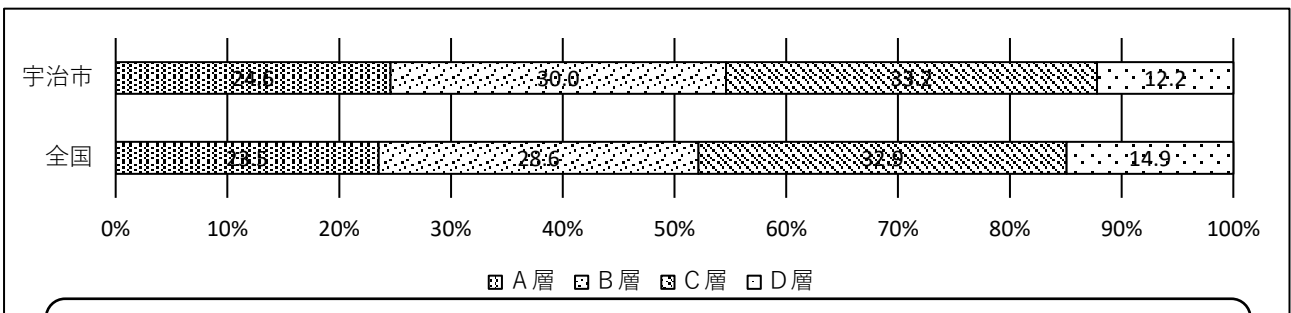
※ 本年度の小学校国語の出題数は14問であり、全国の平均正答数が9.5問のため、A層は12～14問、B層は10～11問、C層は5～9問、D層は0～4問となります。

(2) 小学校算数 四層別割合

令和5年度

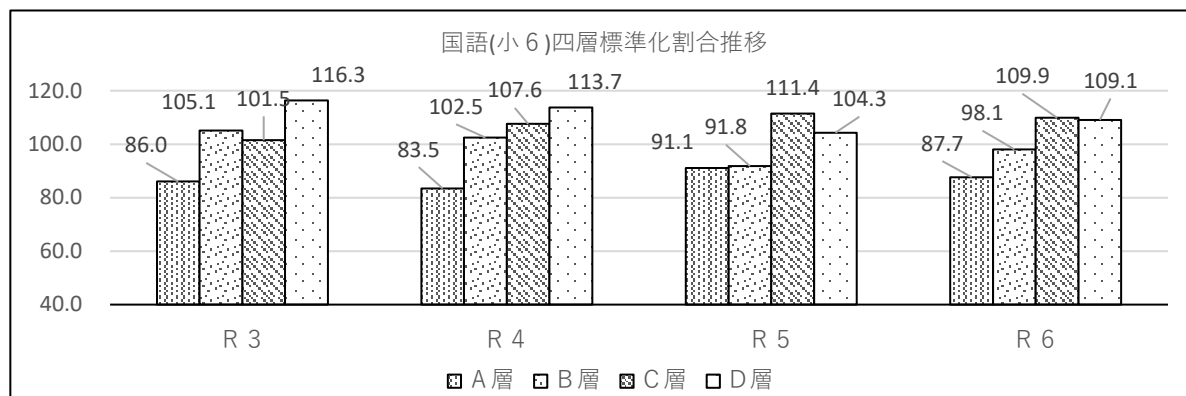


令和6年度

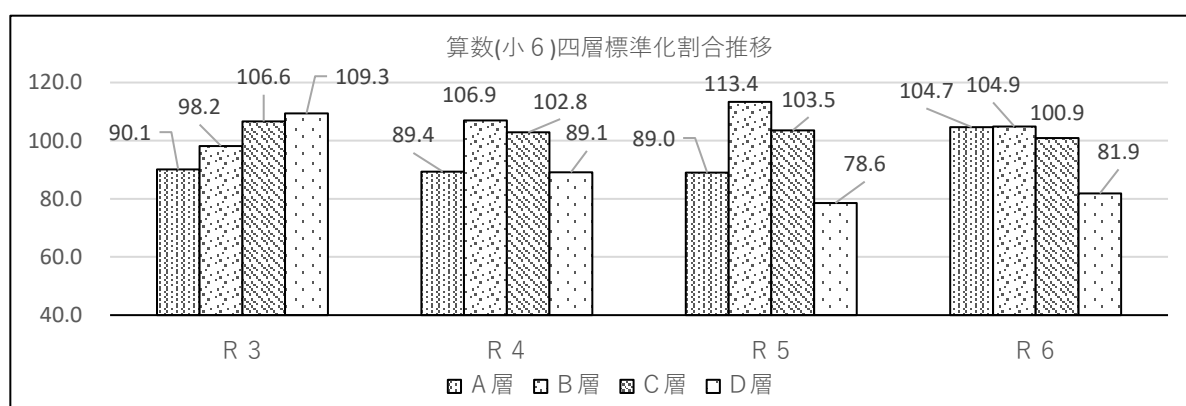


※ 本年度の小学校算数の出題数は16問であり、全国の平均正答数が10.1問のため、A層は14～16問、B層は11～13問、C層は6～10問、D層は0～5問となります。

四層標準化学力割合の推移（小6 国語）

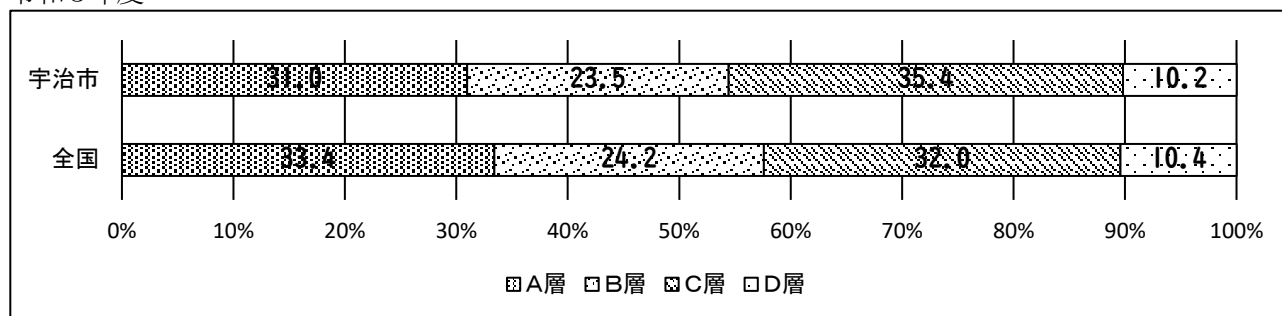


四層標準化学力割合の推移（小6 算数）

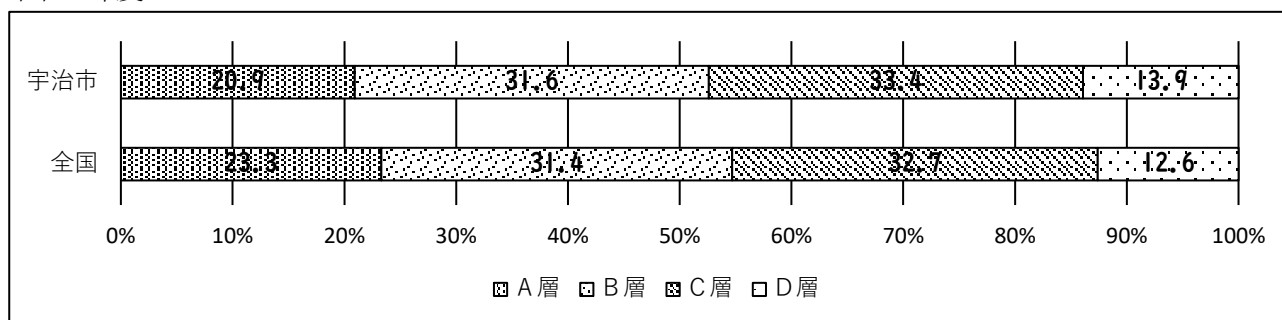


(3) 中学校 国語 四層別割合

令和5年度



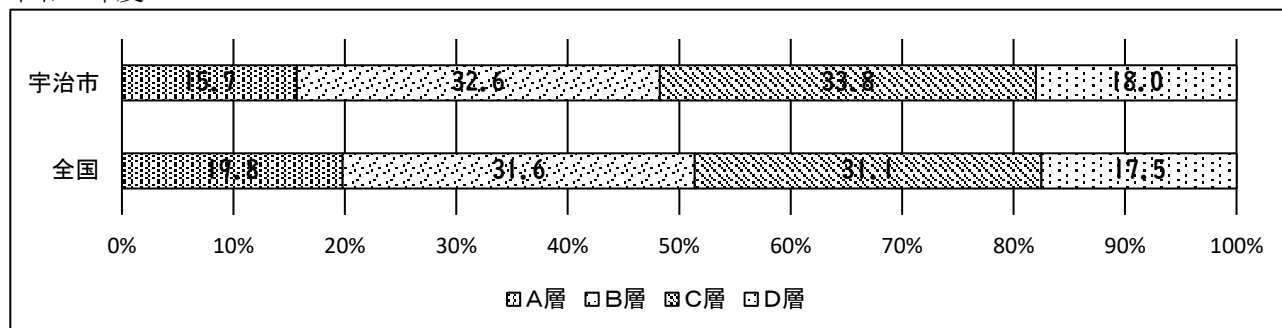
令和6年度



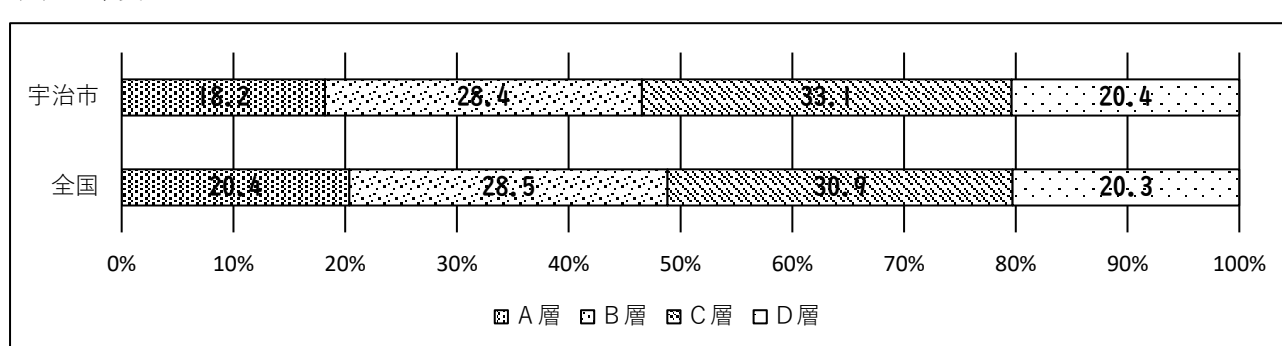
※ 本年度の中学校国語の出題数は15問であり、全国の平均正答数が9.5問のため、A層は12～15問、B層は9～11問、C層は5～8問、D層は0～4問となります。

(4) 中学校 数学 四層別割合

令和5年度

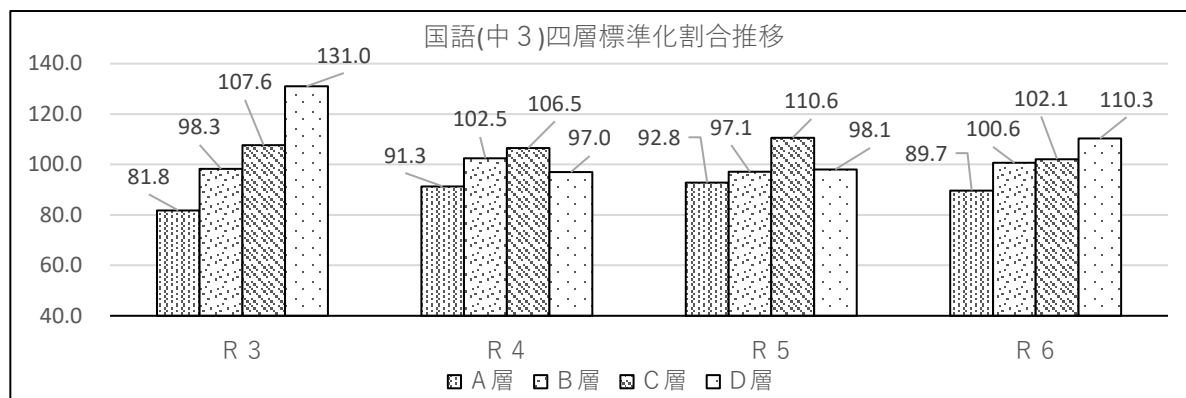


令和6年度

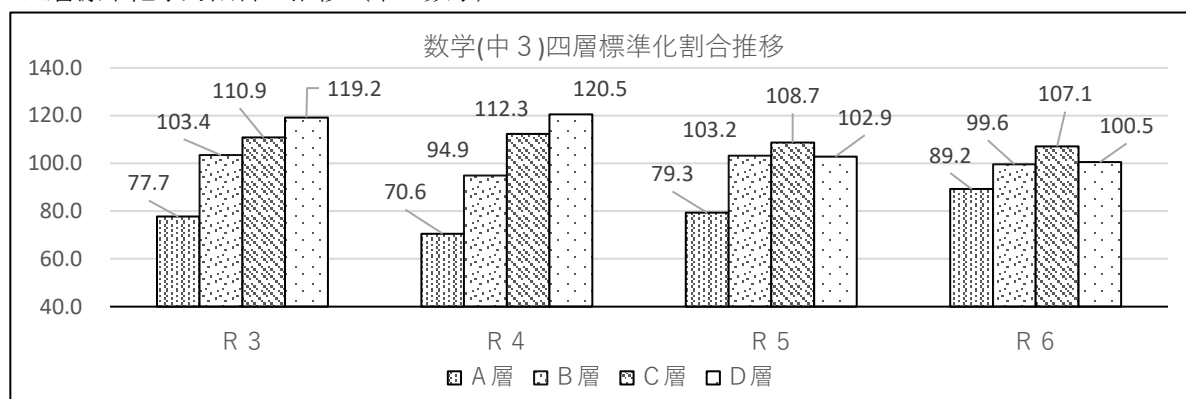


※ 本年度の中学校数学の出題数は16問であり、全国の平均正答数が8.4問のため、A層は13～16問、B層は9～12問、C層は5～8問、D層は0～4問となります。

四層標準化学力割合の推移（中3国語）



四層標準化学力割合の推移（中3数学）

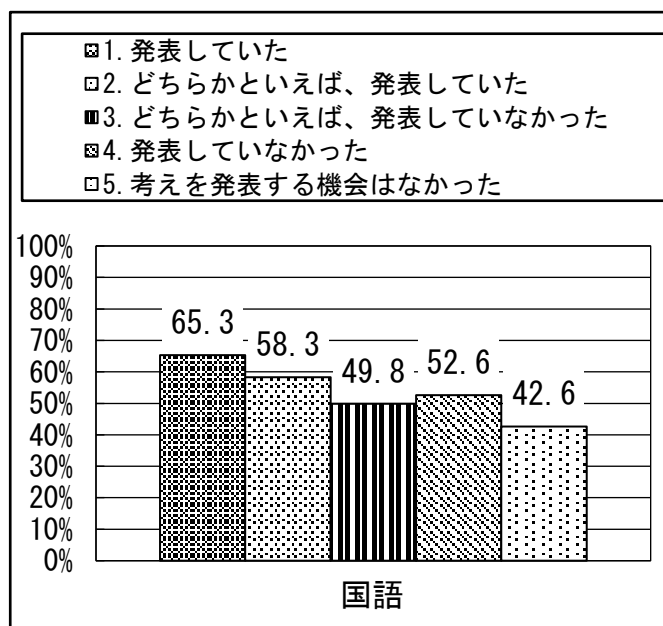
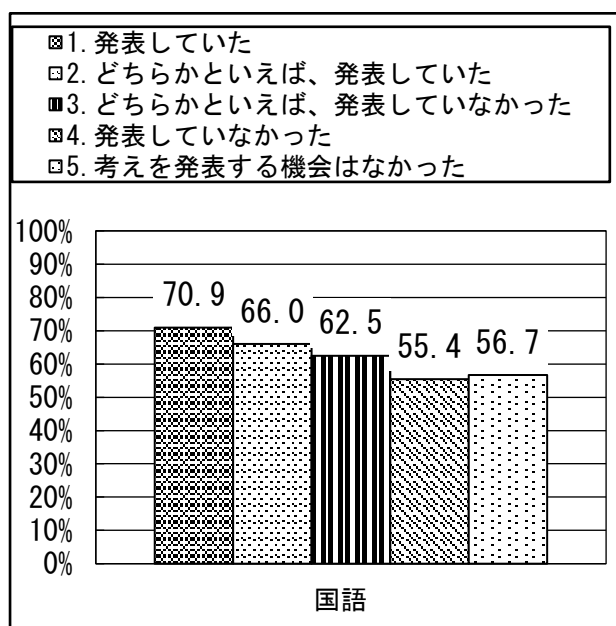


10 授業改善に関わる質問項目と国語科の正答率クロス集計（宇治市 相関係数が高い項目）

（1）自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか

小学校（0.185）

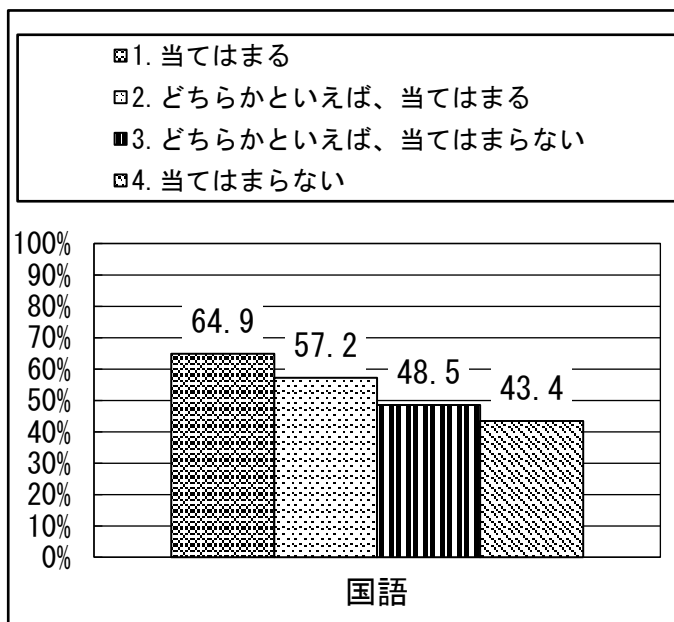
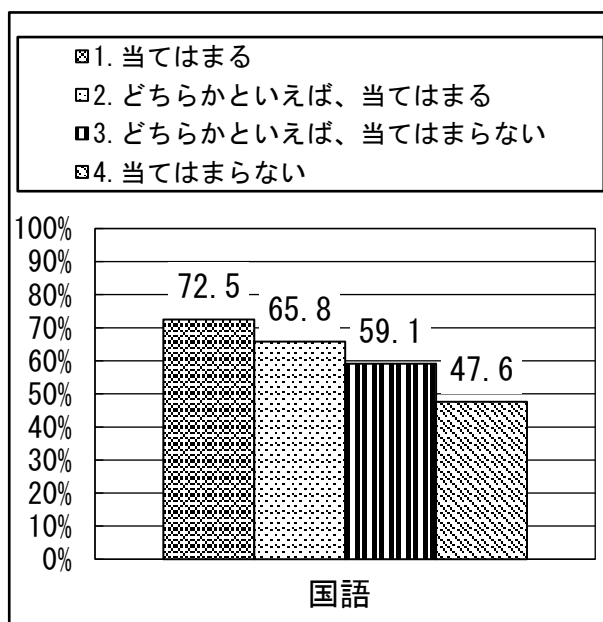
中学校（0.221）



（2）課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか

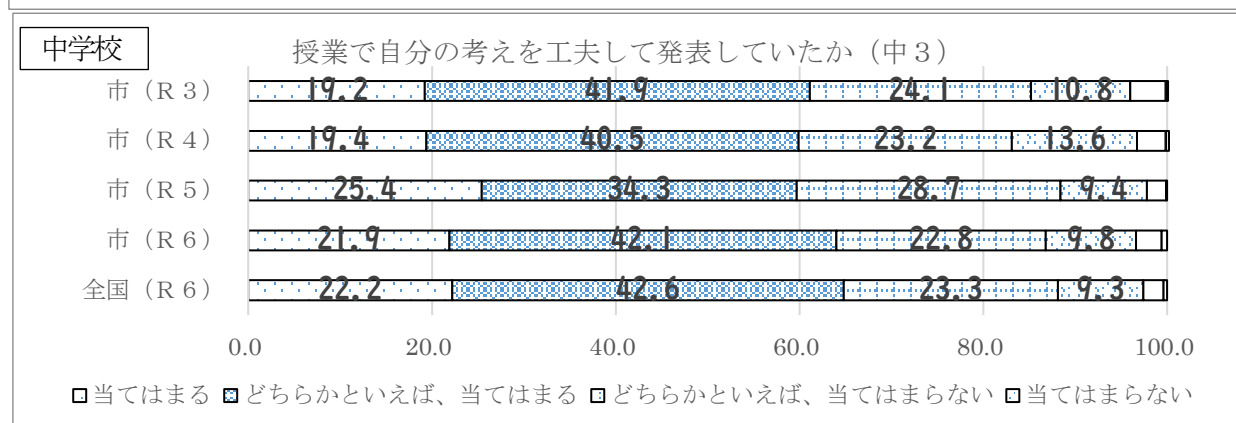
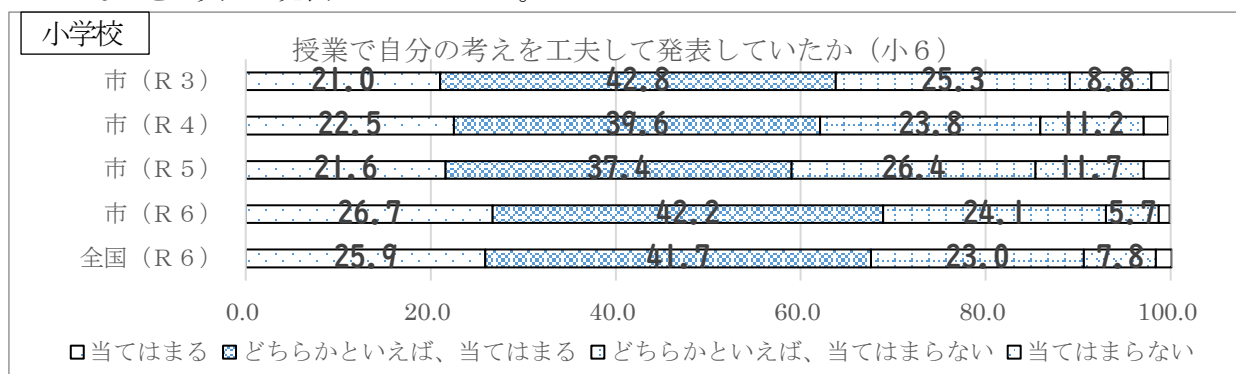
小学校（0.251）

中学校（0.254）

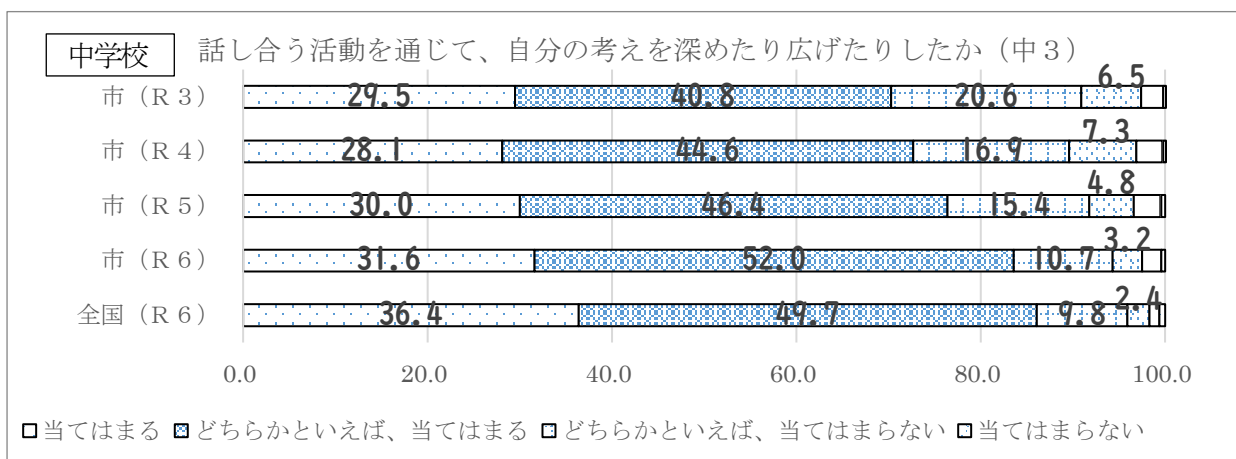
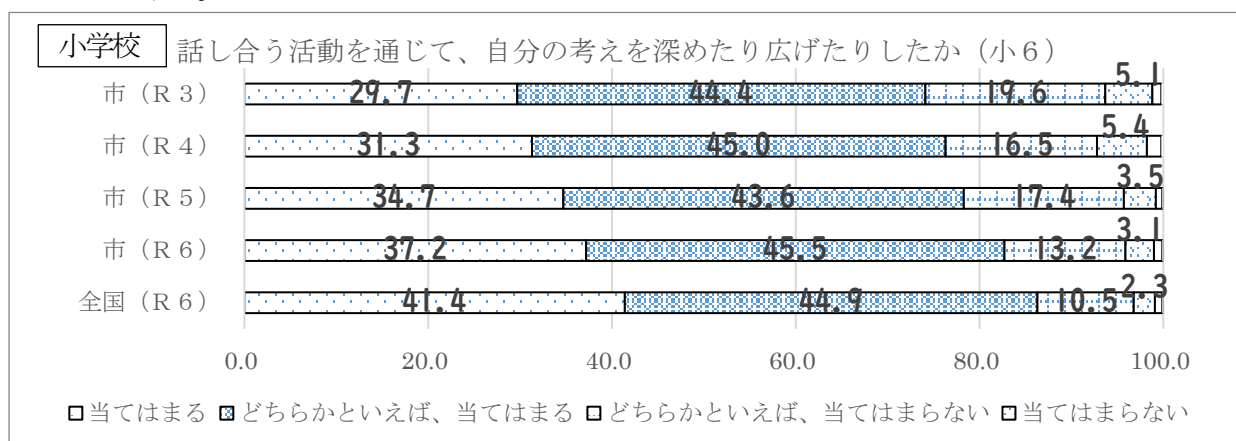


1.1 授業改善に関わる質問項目

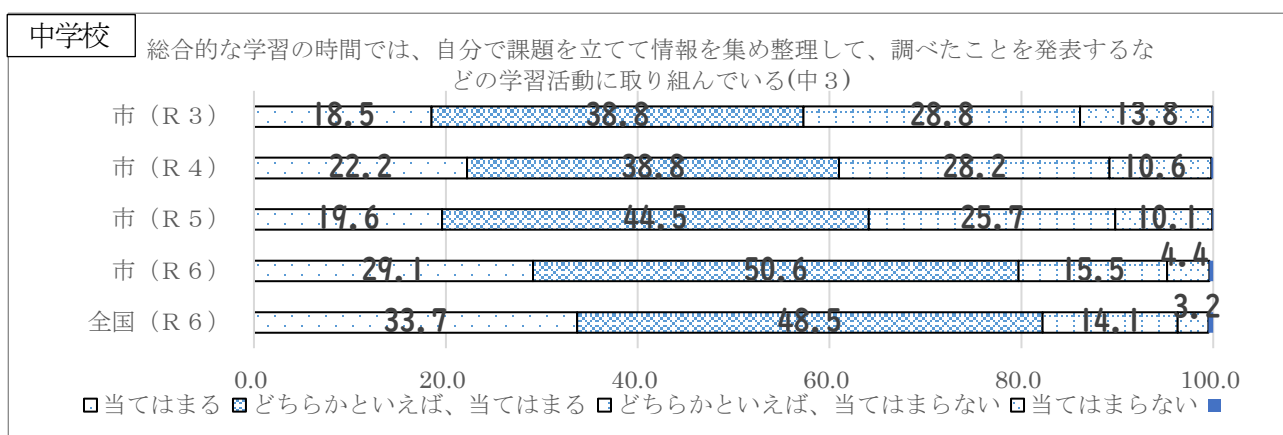
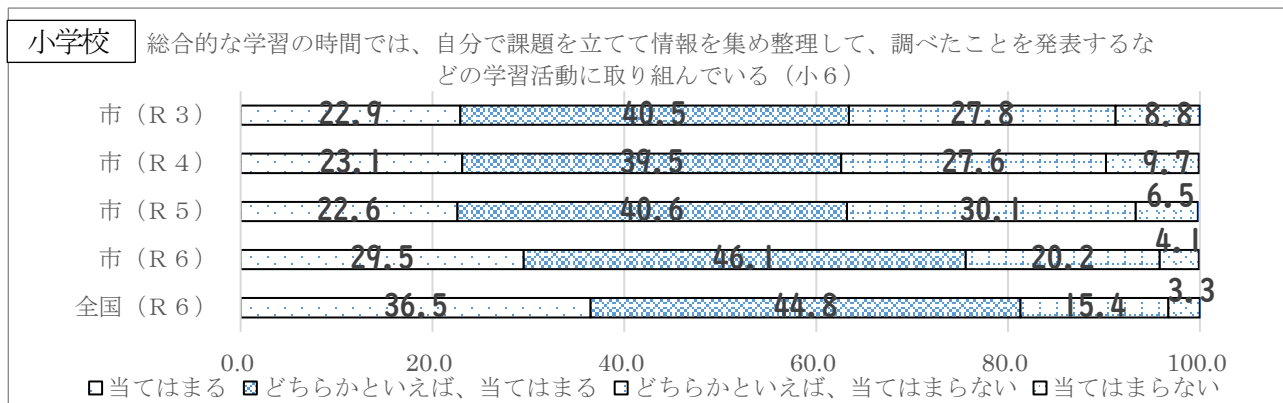
- (1) 授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。



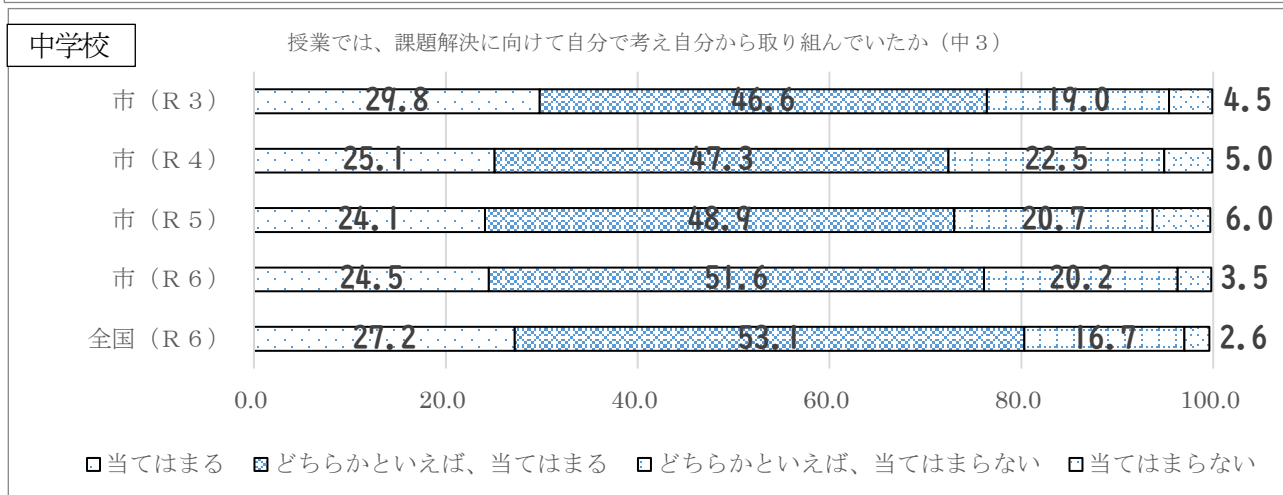
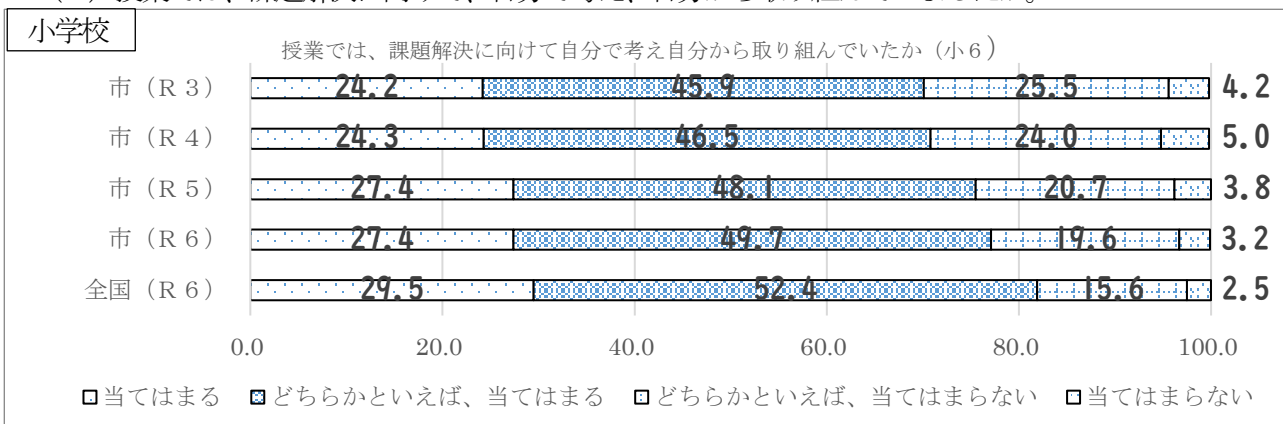
- (2) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



(3) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。

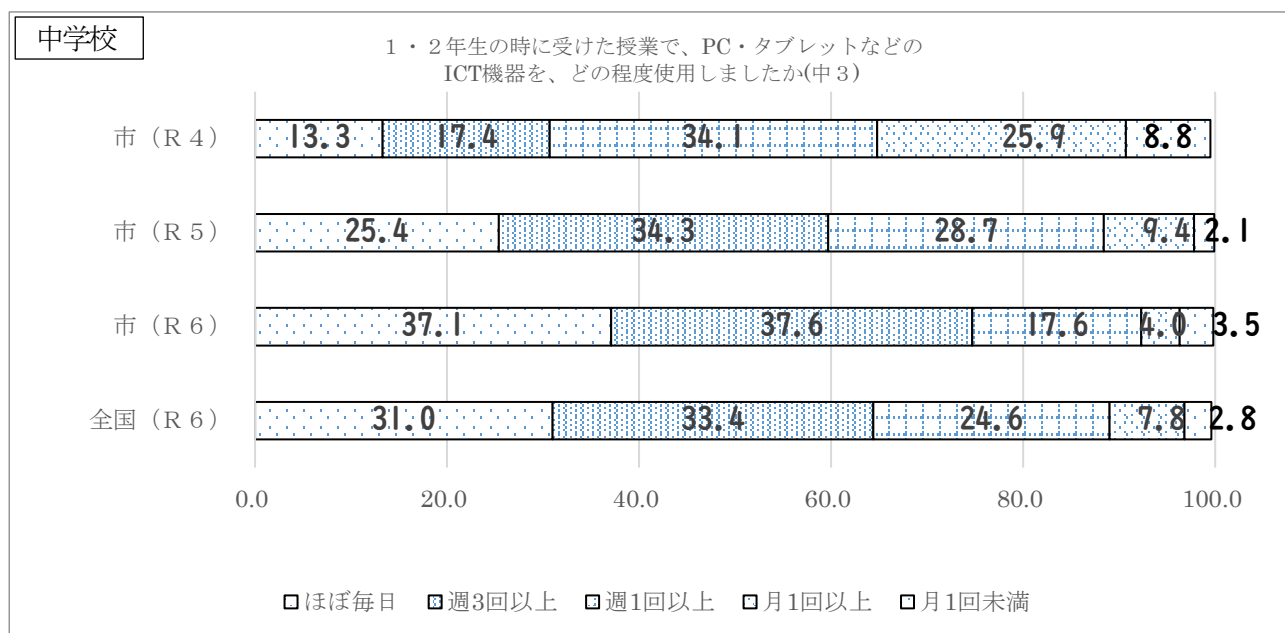
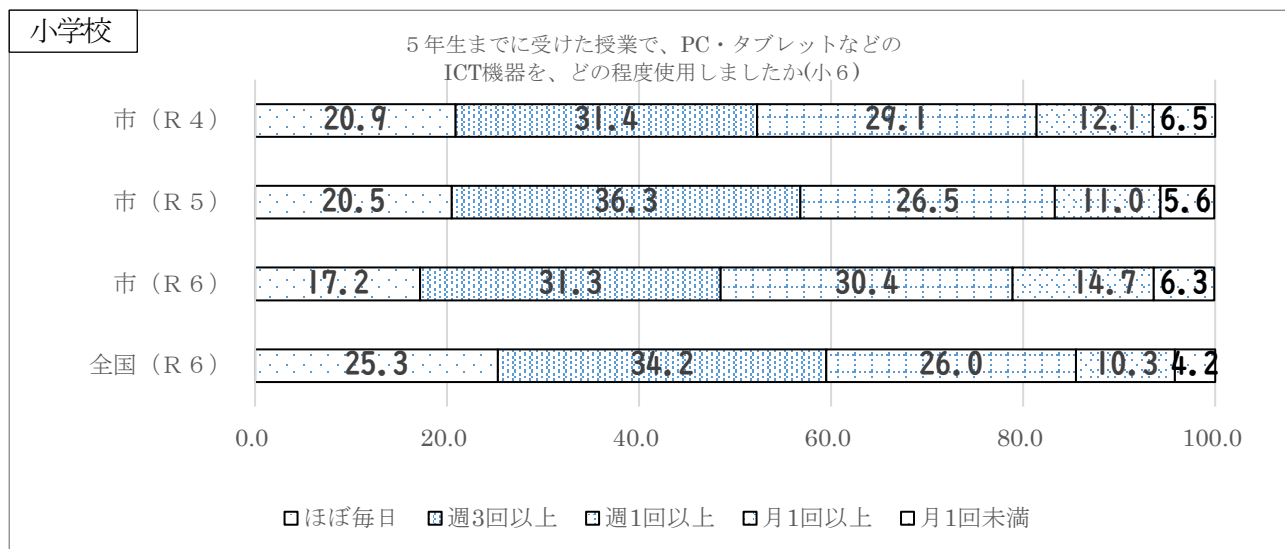


(4) 授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



1.2 情報教育にかかわる事項

○ 授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。



1 3 課題のある問題

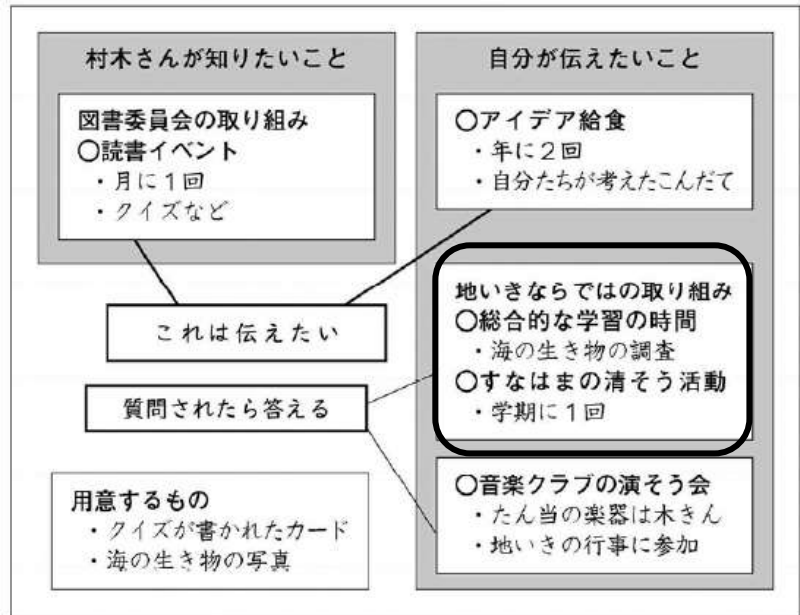
小学校 国語

話すこと・聞くこと 問題番号 1 三

市平均 59.1 全国平均 63.8 差－4.7

- ④ 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。
- 3 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。
- 2 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理したことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。
- 1 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。
- 三 和田さんは、【和田さんのメモ】をふり返し、発言⑮のところで、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きました。

【和田さんのメモ】



- ⑭ はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。
- ⑮ えっと…（【和田さんのメモ】を見返す）、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。
- ⑯ 二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つ詳しく教えてください。
- ～（交流が続く）～

※1 段目宇治市の割合 2 段目京都府の割合 3 段目全国の割合

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
1 三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	4.5	15.2	19.1	59.1					0.0	2.0
		4.9	18.5	18.8	85.1					0.1	0.8
		5.1	13.4	18.8	83.8					0.1	0.9
1		1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3		3 と解答しているもの									
4	◎	4 と解答しているもの									
9 9		上記以外の解答									
0		無解答									

ポイント

- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるようになる授業の工夫が必要
- 「複数の資料を関連付けて情報を取り出す力を身に付けさせる」必要がある。

◇ 夏草小学校の森川さんの学級では、春花小学校の6年生と町の魅力についてオンラインで紹介し合うことにしました。夏草小学校の森川さんは、春花小学校の島田さんと紹介し合おうとしています。

森川さん

夏草町の魅力を伝えるには、この町ならではの特徴を選んで伝えるのが喜ばれるんじゃないかな。伝える情報は総合的な学習の時間に調べていたからたくさんあるな。

島田さんが知りたいと思っていることもあるだろうし、私が伝えたいこともあるし、どうすればお互いの町の魅力を時間内に紹介し合えるか悩んでいます。

教師

限られた時間で、自分の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて話すためには、伝える情報を整理しておくことでそうですね。事前に、島田さんが求めていることについて尋ねてみましょう。 ※教師は事前に相手先の学校と打合せを行う。

「目的や意図に応じて伝える力」等、児童が身に付ける力を明確にする。

【島田さんから森川さんに届いたメールの一部】

私は、春花町のみりよくは伝統工芸がたくさんあり、伝統を大切に守っているところだと思っています。オンライン交流では、森川さんの町の伝統文化について教えてほしいです。

活動の中で児童が試行錯誤するなど、しっかりと考える機会を設ける。

【メールの内容を踏まえて、オンライン交流に向けたメモを作成する森川さんの様子】

森川さん

島田さんが知りたいことと、自分が伝えたいことを整理したけど、情報量が多くなってしまいました。話す時間が限られているので、何から話すか迷っています。

島田さんが知りたいこと	自分が伝えたいこと
夏草町の伝統文化。	○自然と歴史が感じられる町。
○自然のめぐみに感謝する伝統行事「夏草まつり」。	・江戸時代から続く農業の町。
・秋かく祭(芋)粥。	・くら造りの町なみ。
・「夏草ばやし」のおどろ。	・町の外に広がるイモ畑。
・「夏草まつり」の歴史。	○人のつながりを大切にしたい町。

森川さんは、相手が知りたいことと、自分が伝えたいことを整理することができました。でも、情報量が多くなってしまったそうです。限られた時間で話すために、皆さんからよいアドバイスはありませんか。

どのようにすれば、課題が解決するのか、具体的な指導や支援のポイントを明確にする。

森川さん

これだけは伝えたいということを先に決めるといいんじゃないかな。

島田さん

伝える優先順位を考えて、内容や量を工夫するとよいと思います。

島田さん

言葉だけで伝えると時間がかかることがあるので、写真などを用意してもよいですね。

中学校 国語
書くこと 問題番号 3 四
市平均 44.9 全国平均 49.3 差－4.4

イ

ア

四
あれから数日が過ぎた。

一 あの日も僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた。ほこりだらけになりながら。中学生になつてから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたり、書き込みをしたりしてくれたのに。君との距離は、すいぶんと遠くなってしまった。

二 インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、すぐに知りたいことを教えてくれるし、かさばらないし。君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。

三 そう考えていたとき、君は僕を手にとった。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだったから、僕はびっくりし、君はほこりで大きくしゃみをした。ほこりだらけの僕に顔をしかめたけれど、何度もページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引き、意味を確認する君。意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらくページを繰り、小学生のときに印をつけた言葉を読み返していた。君はみちたりの表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。

紙の辞書を登場人物とした物語の結末を、「次の出番への期待」という心情が伝わるように工夫して書く。その際、次のア、イの指示に従う。

ア…「あの日から数日が過ぎた。」に続けて、表現を工夫して書きなさい。

イ…アで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

※1 段目宇治市の割合 2 段目京都府の割合 3 段目全国の割合

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
3 四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果 を説明する	44.9	30.1	0.8						10.7	12.5
		52.8	25.2	1.8						0.0	11.8
		48.3	26.2	1.1						8.4	10.0
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① ア に、「あの日から数日が過ぎた。」に適切に続くように、表現を工夫して物語の最後の場面を書いている。 ② イ に、ア のように表現することで、「僕」の次の出番への期待を伝える上で、どのような効果があるのかを具体的に書いている。											
1	◎	条件①、②を満たして解答しているもの									
2		条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの									
3		条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの									
99		上記以外の解答									
0		無解答									

ポイント

- 自分が工夫した表現について、どのような効果があるのかを認識して文章を書くことができていない。自分が読み手に伝えたいことを明確にし、そのねらいに応じた表現の工夫ができているのかを確かめることができるような指導が必要。
- 「複数の条件を踏まえて記述する力を身に付けさせる」必要がある。



伝えたいことを読み手に伝えるために、どのように描写を工夫すればよいのかを考えて、物語を書きましょう。

生徒が身に付ける力を明確にする。



書いた人は、自分が文章のどこを工夫したのかを言いましょう。読んだ人は、その工夫が自分にはどのように伝わったのかを返しましょう。改善のアイデアがあれば、出し合ってみましょう。

〔交流している場面の例〕



私は語り手をサッカーボールにしました。最後の一文を「僕は夕日に向かって転がりました。」としたのですが、ここからどのようなことが伝わりますか。

練習が終わって緊張から解放された感じと、満足感が伝わってきます。



あ、そうでしたか。私は「明日の大会で勝利する予感」を表現したかったのですが、伝わりにくかったようですね。

そうだったんですね。それなら、明るい色や光を取り入れた描写にしてみてもいいですか。



なるほど。「僕は、オレンジ色の夕日に向かって転がりました。」にしてみようと思います。

もっと工夫することができそうですね。例えば、「夕日の光に包まれていた」という表現を用いるのはどうですか。



確かに、「夕日の光に包まれていた」の方が、前向きな感じがします。「明日の大会で勝利する予感」がより伝わると思います。

活動の中で生徒が試行錯誤するなど、しっかりと考える機会を設ける。

どのようにすれば、課題が解決するのか、具体的な指導や支援のポイントを明確にする。

1.4 第2次宇治市教育振興基本計画に基づく現状値

(1) 教科に関する現状値

第2次宇治市教育振興基本計画では、全国学力・学習状況調査の「受験者数」を2.5%ずつに区分し、その区分の境にある正答数を規準として上位からA層、B層、C層、D層に分け、それぞれの割合を算出し、現状値及び目標値を設定しております。

※現状値は、各年の宇治市のC層・D層の割合、目標値は、各年の全国のC層・D層の割合としています。

① 小学校6年

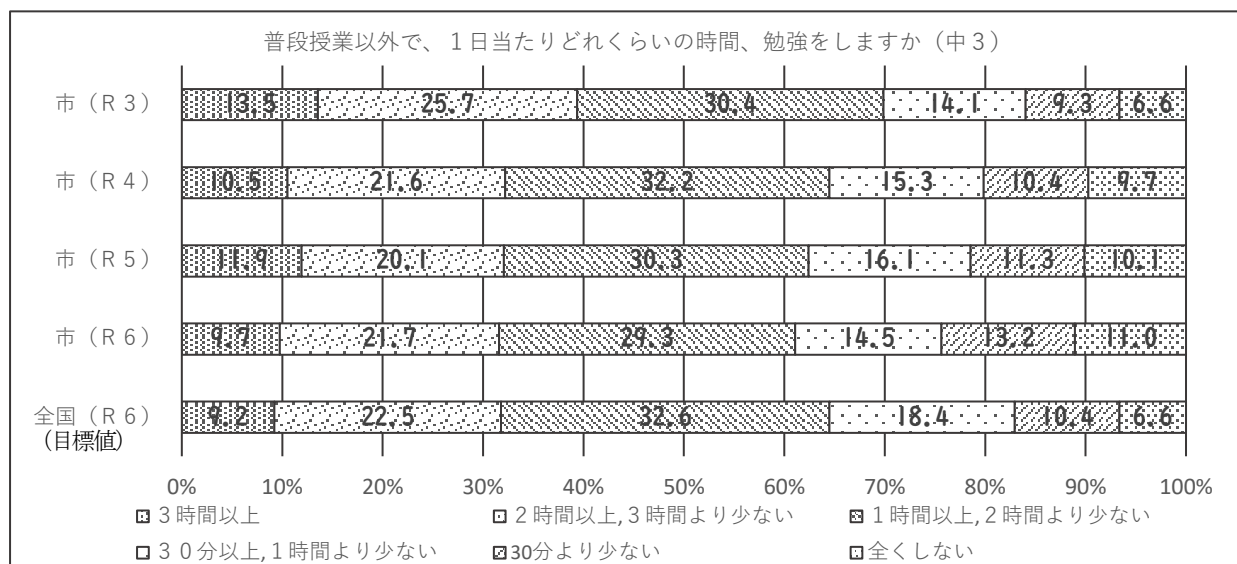
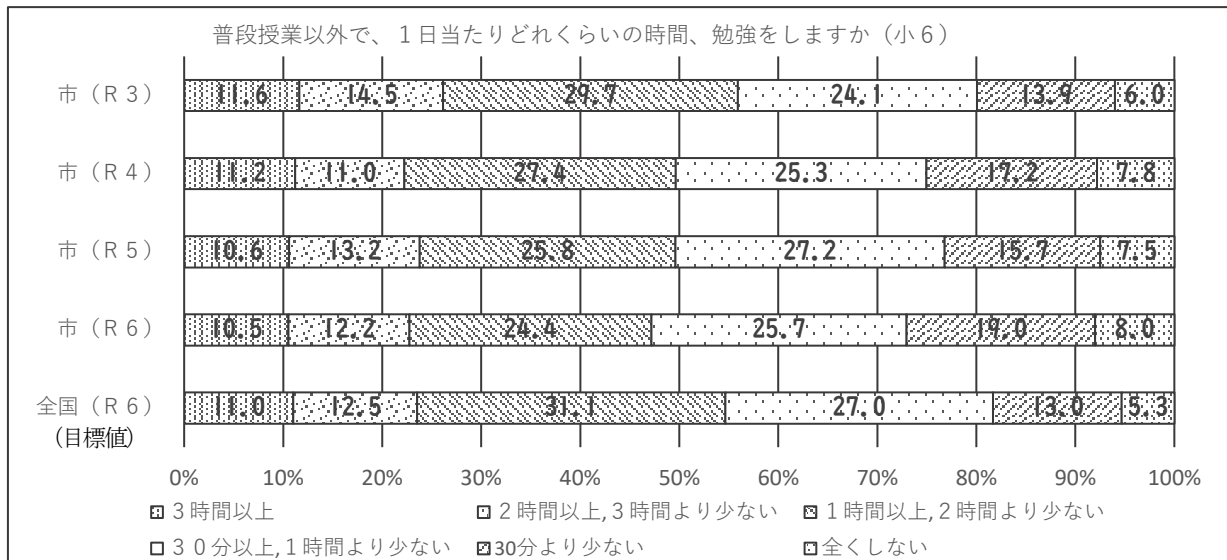
		D層の割合		C層の割合	
科目	区分	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度
国 語	現状値	27.6%	26.6%	20.9%	22.7%
	目標値	24.6%以下	24.0%以下	19.6%以下	20.8%以下
	全国との差	+3.0	+2.6	+1.3	+1.9
算 数	現状値	17.5%	17.7%	27.9%	33.0%
	目標値	20.1%以下	19.5%以下	27.7%以下	30.5%以下
	全国との差	-2.6	-1.8	+0.2	+2.5

② 中学校3年

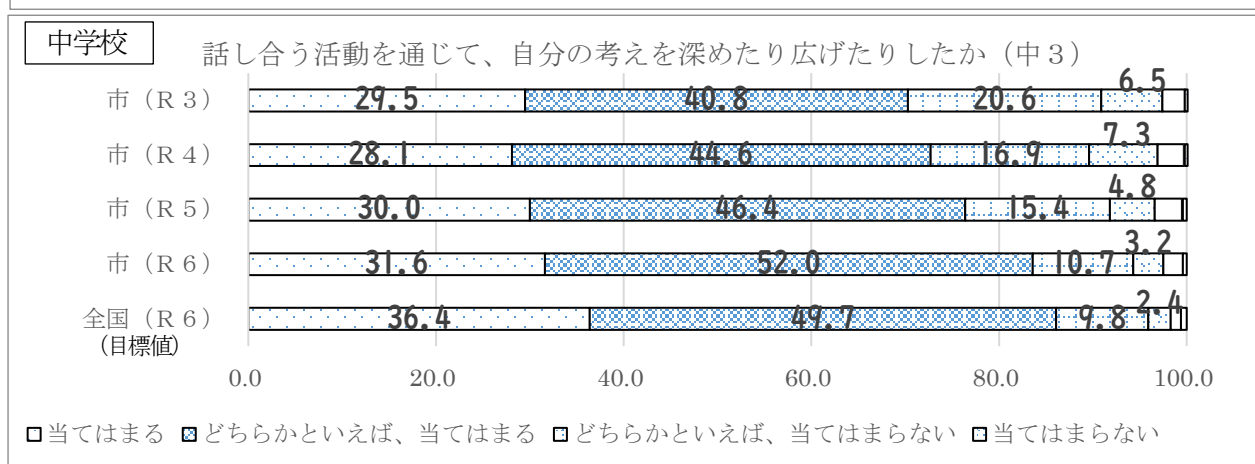
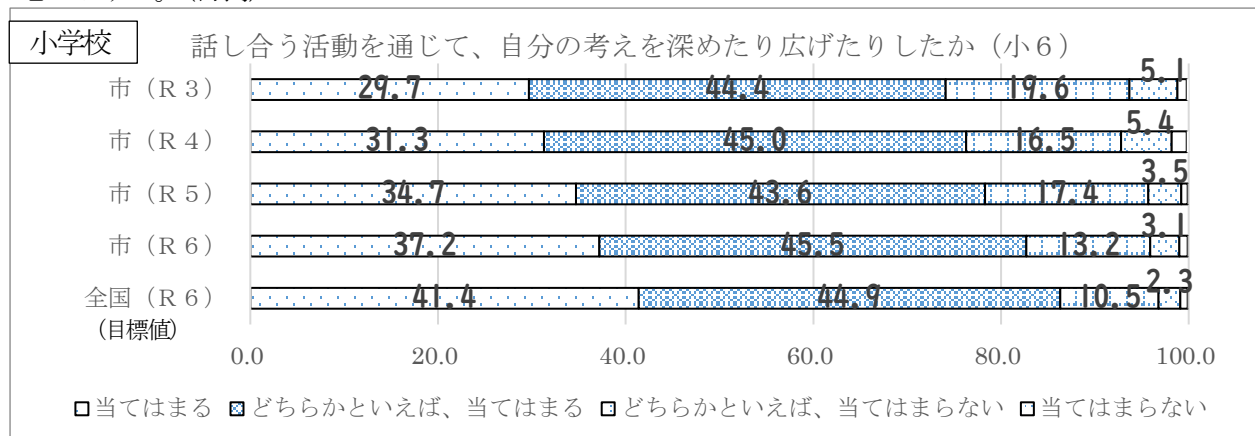
		D層の割合		C層の割合	
科目	区分	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度
国 語	現状値	20.6%	20.7%	26.7%	24.9%
	目標値	18.9%以下	19.4%以下	26.4%以下	23.0%以下
	全国との差	+1.7	+1.3	+0.3	+1.9
数 学	現状値	20.4%	18.0%	24.5%	33.8%
	目標値	20.3%以下	17.6%以下	23.2%以下	31.1%以下
	全国との差	+0.1	+0.4	+1.3	+2.7

(2) 質問項目に関する現状値

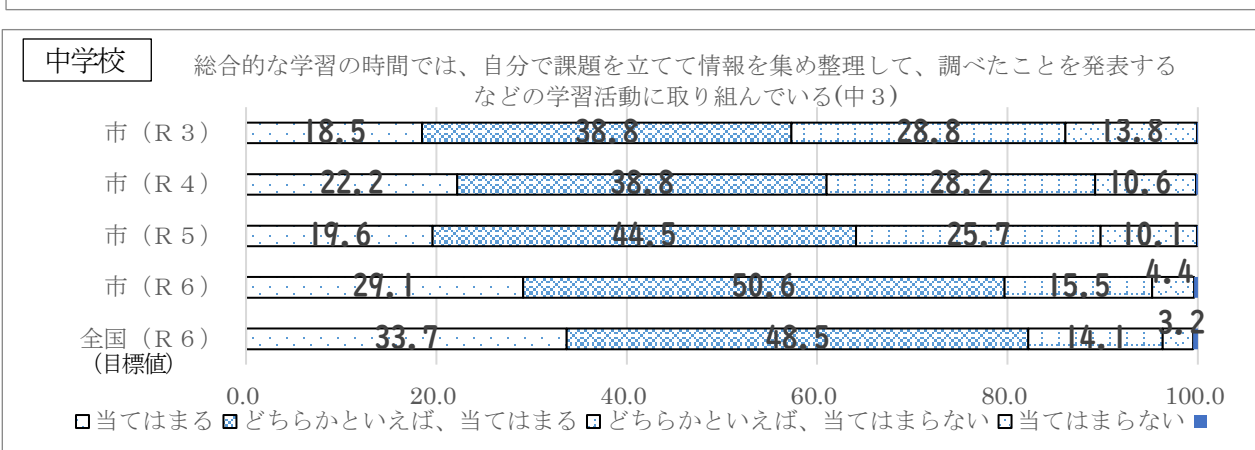
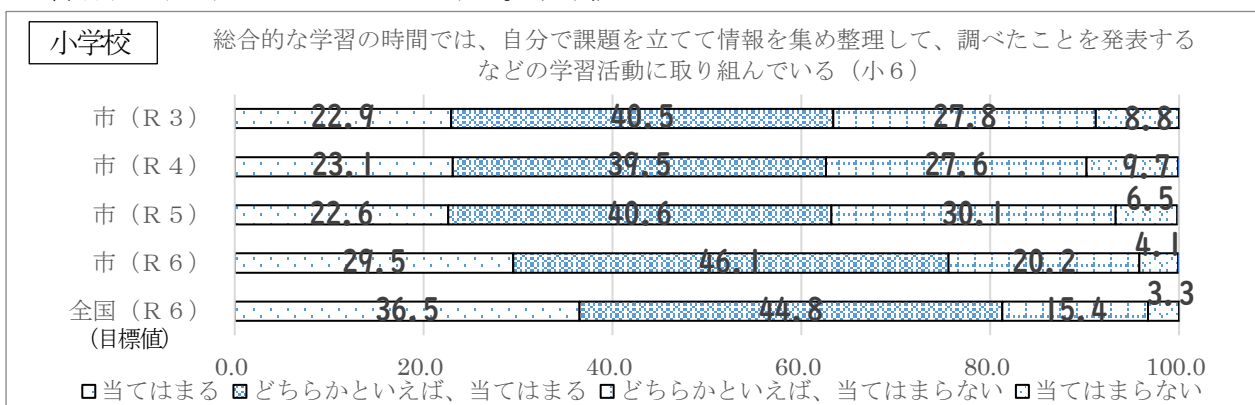
- ① 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



- ② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(再掲)



- ③ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。(再掲)



1.5 結果概要

- (1) 国語科において、平均正答率の全国との差について、上昇傾向が見られるものの、小・中学校とも全国の平均を下回っている。

算数科において、小学校で全国の平均正答率を上回り、中学校においても平均正答率の全国の差が、0.9ポイント縮まるなど、授業改善の成果が表れている。

- (2) 小学校国語科では、標準化学力層割合は、C層が昨年より減少し、B層が増加する一方、D層の割合は増加しており、C層下位、D層への取組の再確認が必要。

小学校算数科では、A・B層が全国比を上回った。D層も標準化学力層割合で全国比-18.1pで、本市取り組みの成果が顕著に表れている。また、C層についても昨年比-2.6pで減少しB層が増加へとつながっている。

中学校国語科では、B層の割合が増加し、C層の割合が減少するなど取組の成果がみられる。しかし、小学校同様、D層の標準化学力層割合は、増加しており、C層下位、D層への取組の再確認が必要。

中学校数学科では、A層の割合が増加した。また、C層(昨年比-1.6p)・D層(-1.4p)が減少している。B層が-3.6pと減少したが、全体として、一定成果となっている。

- (3) 主体的・対話的で深い学びについての質問項目に肯定的に回答した児童生徒ほど、国語科の正答率が高い傾向が見られる。

- (4) 主体的・対話的で深い学びについての児童生徒質問項目では、H31から肯定的な回答が増えている傾向が見られる。学力向上の取組アクションプランの目標指針としている「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しているか」の項目では、肯定的に回答している割合が、小学校6年で全国を上回った。その他の主体的・対話的で深い学びに関する項目では、全国との差が、減少傾向ではあるものの依然マイナスとなっている。

- (5) 授業時間以外の学習時間を問う質問項目に、「30分より少ない」と回答している児童生徒の割合が増加しているため改善に向けた取組が必要。

1.6 今後の対応

各校の学力向上の取組アクションプランがより効果的になるよう、本調査の分析を反映し、以下の観点から具体的な取組を進める。

- (1) 学習の苦手な児童生徒であっても、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう授業改善を進める。
- (2) 各校の授業改善が具体的に進行するよう、学力・学習状況調査の分析を踏まえて課題を焦点化した「主体的・対話的で深い学び」を進める授業改善の指針を作成する等、各校に対する具体的な指導・支援を行う。
- (3) 児童生徒の学習習慣の確立を目指し、取組の実態把握を行い、各校に対する具体的な指導・支援を行う等、学校と家庭が連携した家庭学習の取組を推進する。